

台湾訪問と竹林調査

派遣国名:台湾 受入機関:台湾大学 派遣期間:2012.6.1~2012.7.31

本派遣プログラムにより台湾大学に2か月間滞在させていただきました。私はこれまで九大演習林において森林の水循環に関わる研究に携わってきました。良い機会を頂きましたので、この分野の第一線の研究者として活躍されている台湾大の久米朋宣助理教授を訪問し、データの共有と今後の共同研究を目指した話し合いを行ってきました。今回、先方の研究室で竹林の調査を精力的に行っているということもあり、竹林の話が中心になりました。

近年、西日本を中心に管理放棄された竹林（モウソウチク林）が拡大し、在来の森林と入れ替わる現象が広く認められています。同じように、大陸から移入されたモウソウチク林の拡大は台湾でも問題になっています。久米さんの研究室では、この竹林の拡大が地域の物質循環に与える影響を明らかにするため、竹林内で水（蒸散、遮断、林内雨）と炭素（林冠のガス交換、成長、土壌呼吸）の循環に関わるパラメータを測定しています。私も福岡で竹林の蒸散測定を行っていましたので、そのデータと測定経験を基に、実りある議論が出来たと思います。学生さん達もとても熱心で、これから1,2年もすれば台湾の竹林から良いデータが集まってくるはずです。日本の竹林と比べてどのくらいの違いがあるのか、今からとても楽しみです。

台湾大実験林の竹林でまず目を引いたのは、林床植生が豊富なことでした。竹林と言えば林床植生が非常に乏しいのが特徴だと思っていましたから、同じモウソウチク林であっても大分様子が違うことに驚かされます。ただし、近傍のスギ人工林に比べると繁茂の度合いは控えめだったので、どちらの竹林でも林床植生の発達が抑制される傾向があるとは言えるかもしれません。ちなみに近くのスギ林というのは日本のスギと同じ種です（台湾スギの森もありますが）。日本統治時代に植林されたもののようですが、見慣れたスギの林床に木性シダが生えていたり、幹に着生シダのオオタニワタリが付いていたり、亜熱帯の特徴と混ざり合った不思議な風景が広がっています。



日本の竹林



台湾の竹林



スギと木性シダ

研究面以外の台湾大学の生活、街中の日常生活も快適で、とても楽しく過ごすことができました。興味深いことを多く見聞きし、台湾という国そのものに対する興味も膨らみました。このような得難い経験を頂けましたこと、本プログラムと関係する全ての皆様に心から感謝いたします。